



飛ばないテントウムシがアブラムシ退治



アブラムシは体長が2〜4ミリで、植物の汁を吸う害虫です。とても小さいのですが、たくさん子どもを生み、集団で植物につくので、植物の生育が悪くなります。また、イチゴなどの病気を運ぶので、農業にとっては大変困った虫です。

今回は、アブラムシを退治するテントウムシのお話です。

◆アブラムシの天敵ーナミテントウ

テントウムシの仲間、ナミテントウはアブラムシを食べます。人工的なエサでも飼えるので、たくさん増やすことも簡単です。成虫の体の模様はいろいろで、黒に2つの赤い斑点があるもの



や、赤や黄色一色のものなどがあります。ナミテントウは幼虫も成虫もアブラムシを食へ、おとな1匹が、1日に100匹ものアブラムシを食へます。

このように、ナミテントウはアブラムシ退治に大変役立ちそうですが、すぐに飛んで行ってしまい1か所にとどまってくれないという欠点がありました。



◆飛ばないナミテントウ

そこで、農作物の上に長くどどまってアブラムシをたくさん食べてくれるよう、飛ばないナミテントウを作る研究が始められました。同じナミテントウでも飛ぶ力には差があります。

研究では、飛ぶ力が弱いナミテントウをたくさん集めて育て、生まれた子どもの中から、さらに飛ぶ力の弱いものを選ぶということを繰り返して、全く飛ばないナミテントウを作り出すことに成功しました。

今、農業の現場で使うため、最後の仕上げとなる研究が進められています。飛ばないナミテントウの力を借りたイチゴを食へる日ももうすぐです。

